

演題8. 障害者歯科診療センターにおける患者および診療の実態

○柿坂 知英, 菊池 和子, 久慈 昭慶,
梅原真千子, 熊谷 美保, 城 茂治

岩手医科大学歯学部附属病院障害者歯科診療センター

岩手医科大学歯学部附属病院障害者歯科診療センターが開設され、平成12年9月でまる5年を迎えた。

そこで、平成7年9月から平成12年8月までの5年間に当センターを受診した患者446名を対象とし、年齢別患者数、障害別患者数、地域別登録患者数、年度別新患登録患者数、年度別受診回数、通院状況、治療内容、障害別治療内容、行動調節法、障害別行動調節法の各項目を診療録より調査した。結果、年齢は2歳2ヶ月から89歳まで広く分布していた。障害の種類は精神遅滞、自閉症および脳性麻痺が多かった。

地域別登録患者数では、盛岡地区が最も多く、沿岸地区などの遠方は少なかった。治療中の行動調節法では、通法の患者が最も多く、ついで精神鎮静法、機械的方法となっていた。また自閉症では、薬理学的行動調節法下に診療を経験した患者の頻度が高くなっていた。

地域別登録患者数や通院状況を考慮すると、今後は系統的歯科医療体制の充実が重要であると考えられた。

演題9. 歯科麻酔科開設後10年6ヶ月間の静脈内鎮静法症例の検討

○畠山 忠臣, 佐藤 雅仁, 市川 真弓,
四戸 豊, 佐藤 健一, 坂本 望, 城 茂治

岩手医科大学歯学部歯科麻酔学講座

1989年7月、本学歯学部には歯科麻酔学講座が開設され、本年で11年目を迎えた。

そこで、1989年7月から1999年12月までの10年6ヶ月間に岩手医科大学付属病院において、当科が管理した静脈内鎮静法症例634名1313症例について年別症例数、男女比、年齢構成、処置時間、モニター監視時間、使用薬剤、処置内容、術前合併症、静脈内鎮静法を行った理由、術中・術後合併症、依頼された診療科の各項目について臨床統計的観察を行った。

結果、症例数は経年的に増加していた。年齢構成は1歳から89歳まで広く分布していた。障害者歯科センターからの依頼が612例(46.6%)を占めていた。

処置時間は30分以内の症例が642例(48.8%)を占めていた。鎮静薬では、ミダゾラムを用いた症例が1138例(86.6%)であった。術前合併症では循環器系合併症が226例と多かった。

術中・術後合併症に重篤なものはなかった。